

指導内容系統表例（社会科，地歴・公民科）

単元「日本の工業」

	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校
学習指導要領に示された内容	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の工業生産について，次のことを調査したり地図や地球儀，資料などを活用したりして調べ，それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 資源や産業から見た日本の地域的特色 世界的視野から見て，日本はエネルギー資源や鉱物資源には恵まれていない国であること，土地が高度に利用されていること，産業の盛んな国であることといった特色を理解させるとともに，国内では地域の環境条件を生かした多様な産業地域がみられること，環境やエネルギーに関する課題などを抱えていることを大観させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の資源・エネルギーや農業，工業，流通などから系統地理的にとらえる視点や方法を学習するのに適切な事例を幾つか取り上げ，世界の資源，産業を大観させる。 各項目の中でできるだけ日本を含めて扱うとともに，日本と比較し関連付けて考察させる。
押さえておくべき基本的知識	<ul style="list-style-type: none"> 工業製品は私たちの暮らしを豊かにしている。 苅田町→ロボットを使つての作業ラインで多くの人々が働いている。 豊田市→車体はベルトコンベアで運ばれ組立てられている。 自動車の組み立てには多くの部品が必要。その部品は多くの関連工場で作られている。 完成した自動車はトラックで日本全国へ，船を使つて外国へも運ばれる。 以前は自動車の生産はほとんど日本で行い，外国に輸出していたが，最近では<u>世界各国に工場をつくり現地生産し販売している。</u> 日本は資源に恵まれないので，石油，鉄鉱石などの燃料や工業原料を輸入し，それを加工した機械や自動車などの工業製品を輸出している。 わが国の工場はほとんどが中小工場であるが，この中小工場には大工場の関連工場としての役割のほか，専門技術を生かした特殊な工業製品や部品を生産するという大切な役目がある。 関東の南部から九州の北部にかけての海岸沿いに，工業地域や工業地帯が帯のようにつながり，「<u>太平洋ベルト</u>」と呼ばれている。 新しい工業地域やＩＣをつくる工場などは，海から離れた内陸にも広がっている。 運輸の働きが工業生産や人々の暮らしを支えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本→世界有数の工業国，近代工業は，京浜，阪神，中京，北九州の四つの地域を中心に発展した。（京浜，阪神，中京の各工業地帯，北九州工業地域） 第二次大戦後，<u>太平洋ベルト</u>と呼ばれる臨海型の工業地域が形成される。→重化学工業や機械工業を中心とした大きな工業地域のほとんどが集中（京葉，東海，瀬戸内工業地域など） 地域の特色を生かした食品加工業や伝統工業，紙・パルプやセメント工業→工業生産が伸び悩む。 1970年代以降，内陸型の新しい工業地域が，大都市圏の周辺等に形成（北関東【関東内陸】工業地域） 全国各地の交通網の整備→空港や高速道路のインターチェンジ付近に工業団地を開発→工業の地方分散が進む。 ＩＣ等の電子部品や衣服などの工業が東北や九州などへ進出する。 加工貿易（原料を輸入し，工業製品を輸出する貿易）に依存→自動車やＩＣなどの工業製品を輸出する。 大阪市南部から東大阪市，堺市にかけての地域→ミシン・洋傘・ブラシ・自転車・刃物など，泉大津市から泉南市にかけての地域→毛布・タオル・じゅうたんなどの中小企業が多い。 中小企業→大企業や問屋の下請け生産，規模は小さいが高い技術力をもつ企業もある。 地場産業→地域の伝統や技術，資本及び原料と結び付き，地域的なまとまりをもって特産品を作る中小工業→海外への輸出を中心に発展する。 加工貿易→貿易相手国の状況や海外市場の影響を大きく受けやすい。→1980年代，外国製品との競争や関税をめぐって貿易上の対立が起こる。（<u>貿易摩擦</u>） 貿易摩擦を避けるためや安価な労働力を求め，日本の多くの企業が多国籍企業として<u>世界各地で現地生産を行う。</u> 国内の工業地域→工場の閉鎖や工業従事者が減少（産業の空洞化）→国内の労働者の雇用問題，特に中小企業への影響が大きい。 中小企業→海外からの安い輸入品との競争や後継者不足 より高度な技術や新しい製品や付加価値の高い製品の開発，新たな分野への進出 政府や自治体→資金の貸し出しや新たな産業や企業を育てるための支援 経営者の努力や働く人の技能を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本は1960年代に高度経済成長をなしとげ，先進工業国として世界に知られるようになった。 鉄鋼・石油化学などの素材型産業と，電気機械・精密機械・自動車などの部門において，大量生産の技術が確立され，輸出も増加した。 1970年代の石油危機を契機に素材型産業は停滞したが，自動車や電気機械などの機械工業が基幹産業となって，経済成長を牽引した。特に半導体やエレクトロニクス関連商品が急速に増加した。 1980年代の日本の工業生産は世界でも上位を占めるようになり，日本製品は世界各国に輸出される。立地面では，労働集約型部門を中心に，<u>太平洋ベルト</u>から地方への工業の分散がみられた。 1980年代にはいるとアメリカやヨーロッパ諸国との間で，深刻な<u>貿易摩擦</u>を引き起こした。 自動車の輸出数量制限や自主規制枠が設けられ，輸出による海外市場の維持・拡大困難となった。 海外進出は1985年以降の円高でいっそうすすみ，生産コストを下げるために低賃金の労働力や安い用地などを求めて<u>企業が海外に進出する。</u> 企業のアジアにおける海外進出先のホンコンや台湾の生産コストが割高になったため，マレーシア，中国，ベトナムへと進出先を変えている。 企業の海外進出に伴い国内の工場や従業員数は大幅に減少した。 バブル経済崩壊後の1990年代に生じた不況と，東南アジアや中国からの安価な衣類や電気機械などの流入は，いっそうの合理化を企業に迫る。 日本の企業が販売先を海外市場に求める動きが加速する。 日本は，石油危機や公害問題に取り組む中で，すぐれた省エネルギー・環境技術を発展させる。（環境負荷が小さい新技術の開発） 使われなくなった製品や廃棄物を再資源化する技術の発展（廃棄物の共同処理や再資源化物の活用，環境技術の研究） 急速な工業化が進む中国や東南アジアでは，大気汚染や水質汚濁が深刻化しており，その解決策の一つとして日本から環境技術の導入（日本からの技術・資金協力） 産業の空洞化が進むなかで，大企業の海外進出により下請け企業の経営は圧迫され，不況も手伝って倒産や廃業にいたる中小企業が増加する。一方で，独創的な技術や製品を開発・商品化するベンチャービジネス（創造型企業）が現れ，経済の活性化に重要な役割を果たす。
充実させたい言語活動例	<ul style="list-style-type: none"> シミュレーションゲームを通して自動車生産の仕組みについて考えたことをまとめるとともに，自動車生産に携わる人々の工夫や努力について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 諸資料を基に，工業の集中している地域や工業生産額の変化を読み取るとともに，なぜその地域に集中しているのか，その理由をまとめ発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 諸資料を基に，世界や日本の工業の特色，貿易の様子についてまとめるとともに，世界の工業の多様性について説明する。
自ら考え，判断する力	<ul style="list-style-type: none"> 日本の工業生産が，国民生活の向上や産業の発展に重要な役割を果たしていることについて，多面的に考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界的視野から見た日本の工業の特色や課題，その対策について多面的・多角的に考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の工業の多様性や工業という事象の特色が各地域内で他の事象とどのように関連し合っているかについて多面的・多角的に考察することができる。
資料を活用し表現する力	<ul style="list-style-type: none"> 各種の基礎的資料を活用し，日本の工業生産の様子を調べることを通して，国民生活とのかかわりや工業地域の分布などについて分かりやすく表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な資料を収集し，適切に選択・活用することで，日本の工業の特色や課題，その対策について調べ，分かりやすく表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な資料を収集し，適切に選択・活用することで，世界や日本の工業の特色，貿易の様子について調べ，世界の工業の多様性について分かりやすく表現することができる。